

## ZANDEN Model 120 の展開(79) ーベートーヴェンを聴き直す(14)ー

### 1. 始めに

前報(78)に引き続き、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベートーヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベートーヴェンの 7 重奏曲を選定しました。

**London SLG-2259**

**Septet Es-dur Op.20**

**Mitglieder des Wiener Oktetts**

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(8\)](#)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

今回は、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

ウイーンフィルのコンサートマスターであるボスコフスキーが率いるウイーンフィ

ルのメンバーによる 7 重奏団の演奏です。

[アナログ再構成後の活用\(8\)](#)では決してハイファイ調でないと書きましたが、今回イコライザーカーブと位相を調整したことにより、弦と木管の柔らかい響きはそのままだに、よりメリハリのついた演奏であるように聴けました。穏やかでしみじみとした演奏で、次々と繰り出される変奏が室内楽のアンサンブルの楽しさを味わさせてくれます。

#### 4. まとめ

前回の試聴同様、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上